

あいち病害虫情報 最新情報

令和5年7月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

7月13日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の天候の見通しは、暖かい空気に覆われやすいため、気温が高くなる見込みです。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

イネいもち病

7月上旬の巡回調査の結果、葉いもちの発生量は過去10年で最も多い状況です。BLASTA Mによるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果では、7月14日に稲武で感染好適日となりました。今後の気象条件によっては発生量が増える可能性がありますので、発生状況に注意しましょう。詳細は、本日発表の「イネいもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

斑点米カメムシ類

予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は、地域により差はありますが、概ね平年並からやや少ない状況です。7月上旬の巡回調査では、斑点米カメムシ類の捕獲数は水田内及び畦畔雑草で平年並です。しかし、水田内のイネカメムシの捕獲数はやや多い状況ですので、注意が必要です。防除対策等については、本日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」を参照してください。

トビイロウンカ、セジロウンカ

トビイロウンカは、7月上旬の巡回調査で捕獲されておらず、予察灯にも誘殺されていません。しかし、近隣県の予察灯に誘殺が確認されているため、既に本県に飛来している可能性があります。詳細は、本日発表の「ウンカ類情報第2号（トビイロウンカ）」を参照してください。

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、93ほ場中9ほ場で発生を確認し、発生量はやや多い状況です。予察灯では、これまでに長久手市で7月第1半旬に1頭、豊川市で6月第3半旬と7月第1半旬に1頭ずつ誘殺されています。

トビイロウンカとセジロウンカは、ほ場ごとで発生密度に差が大きいので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。

ニカメイガ

弥富市、安城市、知立市において、ニカメイガによる被害の多いほ場が確認されています。今後、次世代による被害が多発するおそれがあります。本害虫による被害が多発した場合、心枯れ茎や白穂となる株が増加し、坪枯れ症状を呈することがあります。ほ場での発生状況に注意するとともに、発生が多い場合はパダンSG水溶剤などで防除しましょう。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市、安城市、西尾市において増加傾向にあります。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」を参照してください。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、概ね平年並ですが、西尾市においてはやや多い状況です。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市、西尾市、豊橋市では多めに推移しており、増加傾向にあります。近年多い傾向を示していますので、今後の発生動向に注意が必要です。

果樹の病害

すでに収穫に入っている作物、品種があります。農薬散布にあたっては、当該ほ場だけでなく、周辺のほ場の収穫時期も考慮して、収穫前日数及び農薬の飛散に十分注意してください。

6月下旬に実施した巡回調査において、ブドウべと病の発生量は、過去10年間で最も多い状況でした。本病は、連続した降雨により短期間で急激に広がります。ほ場での発生状況に十分注意し、7月3日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考に防除を行きましょう。

6月下旬に実施した巡回調査においてナシ黒星病は、葉における発生量は平年並ですが、果実における発生量はやや多い状況です。ほ場での発生状況に注意し防除を行きましょう。

モモせん孔細菌病は、この時期に形成される夏型枝病斑から活発に病原菌が増殖、漏出します。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。次作への越冬病原菌量を増やさないためにも、収穫後の秋防除を行きましょう。

果樹カメムシ類

予察灯及びフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数はやや少ない状況です。7月13日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと予想されています。そのため、果樹カメムシの活動に適した気象となるため注意が必要です。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来します。果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて防除しましょう。また、8月上旬発表予定の「果樹カメムシ情報第2号」で、7月下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載する予定ですので、参考にしてください。

チャノキイロアザミウマ

カンキツほ場における本種の黄色粘着トラップにおける誘殺数は、蒲郡市で多く、南知多町でやや多い状況です。詳細は、7月13日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号（カンキツ）」を参照してください。また、ブドウほ場における本種の誘殺数は少ない状況です。本種の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（下表）を参考に防除を行きましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（7月18日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第3世代	7/2	7/3	6/27	6/29	7/2	7/3	7/2	7/2	7/6	7/2	第2世代	7/6
第4世代	7/21	7/22	7/15	7/17	7/21	7/21	7/20	7/20	7/24	7/20	第3世代	7/28
（前年）	7/24	7/24	7/19	7/20	7/24	7/25	7/23	7/23	7/28	7/23	（前年）	7/28
前年差	3日早	2日早	4日早	3日早	3日早	4日早	3日早	3日早	4日早	3日早	前年差	±0
第5世代	8/6	8/8	8/1	8/3	8/7	8/8	8/6	8/7	8/11	8/6	第4世代	8/18

各地のアメダス平均気温から予測。7月17日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。前年の第4世代（稲武は第3世代）は前年気温の実測値を用いて計算。

ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数は、長久手市（農総試内のモモ・ナシほ場に設置）で多い状況ですが、その他の地点では概ね平年並です。しかし、6月下旬に実施した巡回調査において、モモのナシヒメシンクイによる被害新梢率はやや高い状況でした。今後、ナシにおいても被害が発生するおそれがありますので注意しましょう。

クビアカツヤカミキリに注意！

海部地域、名古屋市のサクラ等でクビアカツヤカミキリの発生を確認しています。本虫はモモやウメにも寄生し、樹木内部を食害し、樹の衰弱、枯死を引き起こします。クビアカツヤカミキリ成虫を発見した場合は、直ちに捕殺してください。

また、果樹園で成虫や被害を見つけた場合は、病害虫防除室までお知らせください。本虫の詳細については、令和3年3月4日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号（モモ、ウメ）を参考にしてください。

イチゴ炭疽病

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。今後のほ場での発生に注意しましょう。発生を確認したら、発病株は速やかに処分し、発病株の周辺にある株も同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。また、育苗終了まで定期的に薬剤で予防防除を行きましょう。

トマト苗へのコナジラミ類の寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。育苗時におけるウイルス病の感染防止のため、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820